

# ニホンウナギ生息状況調査

(内水面資源生息環境改善手法開発事業)

曾田一志・福井克也・若林英人

## 1. 研究目的

県東部に位置する神西湖はウナギを対象とした漁業が盛んであるとともに、県内漁業権河川のウナギ放流用種苗（体重 50g 未満）の供給源であったが、稚魚の激減により種苗供給事業の休止を余儀なくされている。しかし、神西湖におけるウナギの知見は不足しており、資源保護方策検討のための基礎資料収集が求められている。そこで、神西湖および高津川水系において調査を行い、分布、生息環境等に関するデータの収集・解析を行った。

## 2. 研究方法

### (1) 神西湖

シラスウナギ来遊量調査は神西湖と日本海の接続河川である差海川河口において、平成 26 年 2～5 月にかけて月 1 回、新月の大潮時に灯火採集によって実施した。また、操業日誌（ます網、竹筒漁）による漁獲量の把握を行った。

### (2) 高津川

操業日誌（箭、延縄）による分布状況調査を行った。

## 3. 研究結果

### (1) 神西湖

#### ①シラスウナギ来遊量調査

シラスウナギは調査期間内で 88 尾が採捕され、うち 78 尾が 4 月に採捕された（図 1）。

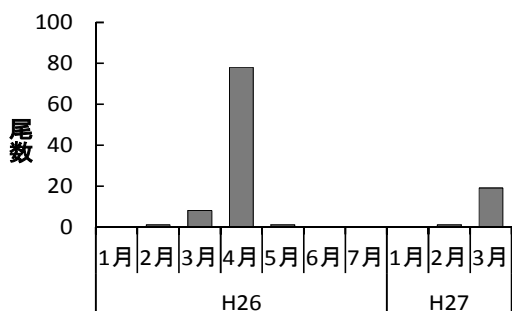


図 1 シラスウナギ採捕尾数の経月変化

採捕されたシラスウナギは全長 54～64 mm（平均 58.5mm）、体重 0.069～0.158g（平均 0.115g）であった。

#### ②操業日誌による分布状況調査

ウナギは平成 26 年 4～10 月にかけて 1,509 尾（354.9 kg）が漁獲され、前年に比べて 949 尾（311.0kg）減少した。漁業種類別では、ます網（3 統分）で 935 尾（247.9 kg）、竹筒（7 漁業者）で 574 尾（106.0 kg）が漁獲された。前年に比べて、ます網では 266 尾（110.8kg）、竹筒では 683 尾（200.2kg）減少した。現在、神西湖では種苗放流は行われておらず、漁獲量の変動は天然資源量の変動を表していると考えられる。平成 23～24 年にかけて全国的に放流種苗用のウナギ稚魚採捕量は減少傾向であったことから、漁獲加入量の低下により今後も減少傾向が続く恐れがある。

### (2) 高津川

#### ①操業日誌による分布状況調査

平成 26 年 5～10 月にかけて 258 尾（55.1kg）が漁獲され、46 尾を再放流した。1 漁業者当り漁獲量は 6.9kg、32.3 尾であった。1 操業当たりの漁獲尾数は下流域（河口から 10km 未満）および中流域（河口から約 30-39km 未満）で多く、約 2.5 尾/回であった。次いで上流域（河口から 50-59km）で多く、2 尾/回であった。一方、漁獲されたウナギの 1 尾当たりの体重は前年度と同じく河口から中流にかけて減少し、上流では増加する傾向が見られた。

## 4. 研究成果

調査で得られた結果は、（独）水産総合研究センターが取りまとめた平成 26 年度健全な内水面生態系復元等推進事業のうち「内水面資源生息環境改善手法開発事業」報告書により水産庁に報告された。